令和8年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善案）　算数科

小29　練馬区立光が丘四季の香小学校

学年	課題分析	授業改善策
1	①文章問題が解けない。 ②5や10のまとまりを理解できていない児童がいる。 ③計算力に差がある。 ④文章問題の場面と、具体物・図・式を結び付けて考えることに課題がある。	①練習を重ねる。何を聞かれているか、使える数字は何か、演算決定のパターンを指導する。（線を引く、丸で印をつけるなど。） ②ゲームを取り入れるなどして、まとまりを覚えさせる。 ③計算カードを使って計算に慣れる。宿題などで家庭の協力を仰ぐ。 ④文章問題では、ブロックやおはじきなどを実際に操作したり、簡単な図に表したりしてから式につなげる活動を繰り返し、場面と式を結び付けて理解できるようにする。
2	①たし算やひき算の立式されたものは計算できるが、文章問題から立式したり、考えたりすることが苦手な児童がいる。 ②繰り上がりや繰り下がりの仕組みを理解しておらず、筆算を使って計算できない児童が数名いる。 ③cmやdLなどの単位への理解の定着が不十分である。 ④文章問題の数量の関係を、具体物や図を用いて捉えることに課題がある。	①学習のはじめにフラッシュカードなどを用いて計算に慣れさせると共に、学習のまとめのときに文章問題を作成する活動を取り入れる。また、モジュールの時間にも文章問題を解く活動を取り入れて習熟を図る。 ②計算の単元のときに再度丁寧に指導する。また、モジュールの時間を活用して反復練習を行う。 ③算数の時間に関係なく、普段の生活の中でも単位を意識させる。 ④文章問題では、具体物やテープ図などを用いて数量の関係を表し、図と式を対応させながら考える活動を継続的に取り入れる。
3	①繰り上がりのある筆算、繰り下がりのある筆算では、十の位に1繰り上げる、十の位から1繰り下げて計算するという仕組みが正しく理解できていない児童がいる。 ②時刻と時間の理解や量換算が難しい児童が多い。 ③文章問題を中心に、場面の数量の関係を図や式に表し、既習事項を活用して解決することに課題がある。	①10のまとまりの個数と端数という数の仕組みに着目させ、既習の1位数の計算に帰着して考えさせる。 ②復習を取り入れ、日常的に「時刻・時間」を扱うようにする。ICTを活用し、ドリルパークを空き時間に活用していく。 ③文章をよく読ませ、線分図や数直線などを用いて数量の関係を整理し、「どの方法を使えば解けるか」を考えてから立式する活動を取り入れる。
4	①既習の四則計算が習得できていないため、桁数が多くなったり、小数になったりすると自力で解けない。 ②文章問題では、場面を読み取って、立式できない児童が多い。 ③整数・小数・分数について、数の大きさや関係を数直線などを用いて捉えることに課題がある。	①モジュールや家庭学習を活用して、基礎的な計算のやり方を身に付け、早く解けるようにする。 ②問題文をよく読ませ、何を求めるのかやどうやって計算できるかを考える時間を十分に確保する。また、既習事項と関連する部分を意識させて、解法までの流れを想起させる。 ③整数・小数・分数の学習では、数直線を活用して数の大きさや位置、単位との関係を視覚的に捉える活動を取り入れ、数の仕組みについての理解を深める。
5	①既習の内容（加減乗除の計算、小数や分数の仕組み）が定着していない児童がいる。 ②既習の内容を生かすことが難しい。 ③数と計算の理解に課題がある。 ④割合などについて、二つの数量の関係を図や式に表し、基準量・比較量・割合の関係を捉えることに課題がある。	①モジュールの時間を活用し、計算ドリルなどで、基本的な計算を繰り返し取り組ませ、計算力を高める。 ②系統性を意識し、既習を想起できるように授業展開を組み立てる。 ③具体物や数直線、デジタル機器などを用いて視覚化することで、児童が取り組みやすいようにする。 ④割合の学習では、数直線や図を用いて数量関係を可視化し、「何を基準にしているか」を確認してから立式する活動を繰り返す。
6	学力調査より ①5年既習の「割合から全体の数を求める計算」や「数直線上の分数の位置を捉える問題」の正答率が低く、基礎的な概念の定着に個人差がある。 ②計算のきまりや図形の性質などの既習内容を活用し、判断根拠を説明する記述問題に課題がある。児童の3割以上が記述を諦めて白紙で出すなど、自力記述を避ける傾向が強い。 ③割合の関係を数直線図から選ぶ問題や立体図形に関する問題の正答率が低く、数量関係や空間構造を視覚的イメージと結び付ける力に課題がある。	①朝学習や宿題に、数直線への書き込みや小数・分数の相互変換など、数の構造を視覚的に確かめる問題を継続的に取り入れる。 ②授業の導入で「既習のどの学習が使えるか」を示して見通しをもたせ、宿題やノートの振り返りでは「○○（既習内容）を使うと」と関連付けて説明する型を定着させる。 ③授業や家庭学習で問題を解く際、数直線やテープ図などの関係図を必ずノートに手描きさせ、常に数量関係を可視化して捉えさせる。